

アルプス農協管内の元年産「富富富」の1等比率は 95.0%と、他品種に比べ高温に強い特性を発揮したものの、乳白粒や青未熟粒等の発生で、前年(99.6%)より低下しました。また、玄米蛋白含有率は目標 6.4%以下に対して管内平均 6.45%と高く、前年(6.21%)に比べ食味が低下しました。

そこで2年産においては、栽培ポイントを確実に実行し、「味の向上、定着」を図り、本県を代表するブランド米として育成しましょう。

ずっと食べ続けたい、  
全国の消費者から  
愛され選ばれるお米へ



## 1 育苗管理 (営農情報第2号参照)

- 育苗期間が高温で推移することが多いため、積極的に換気を行い、がっしりとした苗質に仕上げましょう。

## 2 適切な田植作業の実施

- 田植時期が早いほど、乳白・心白粒の発生により品質は低下し、食味総合値が低くなる傾向があります。品質および食味の高位安定化のため、田植は5月15日を中心(5月6~20日)に実施しましょう。
- なお、乾燥調製作業をJAに委託する場合は、5月18~20日頃の田植としてください。
- 苗箱施薬剤の使用にあたっては、登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。
- 苗を購入している場合は、種子消毒剤と苗箱施薬剤の有無を必ず確認しましょう。
- 栽植株数70株/坪以上、植付本数3~4本/株、植付深さ3cm程度となるよう、田植機を調整しましょう。

## 3 適正な施肥(別紙1参照)



「適正な基肥窒素量の施用」が、  
きれいで、美味しい「富富富」を  
安定して穫る第一歩!

- 基肥施用量はコシヒカリの2割減を原則とし、地力に合わせて増減してください。

表1 施肥基準

土壌区分	基肥一発体系		分施体系	
	肥料名	施肥量	肥料名	施肥量
砂壤土	富富富専用 全量基肥肥料	30kg/10a	基肥 206	27kg/10a
壤土 黒ボク		25kg/10a		21kg/10a
粘質土		22kg/10a		19kg/10a



## 4 田植後の水管理

- 田植後3日間程度はやや深水で活着を促進し、活着後は浅水管理により、分けつの発生を促進しましょう。

## 5 雑草防除

- 除草剤の使用にあたっては、登録内容を遵守するとともに、必ず成分数を確認しましょう。また、除草剤の効果を上げるために散布後5日間は5cm程度の水深を保ち、散布後7日間は落水しないでください。

表2 雑草防除体系例(初期剤+一発処理剤体系の場合)

区分	薬剤名	使用時期	使用量	対象雑草	成分数
初期剤	漏生穂対策に有効 マーシェット1キロ粒剤	移植後3~5日 まで	1kg/10a	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ	1
一発処理剤	NEW エンペラー1キロ粒剤 (エンペラージャンボ)	初期剤散布 7~10日後	1kg/10a (500g/10a)	水田1年生雑草、マツバイ、 ホタルイ、ミズガヤツリ、 ウリカワ等	3

※上記以外の除草剤を使用する場合は、各営農経済センターにご相談ください。

### 【まとめ】

- 田植は5月15日(5月6~20日)を中心に実施する。
- 穂数400本/m<sup>2</sup>を確保し、一穂粒数を過剰にしないため、栽植株数は70株/坪以上を基本とする。
- 適正粒数に誘導するとともに、玄米蛋白含有率を目標値6.4%以下に抑えるため、基肥施用量は「コシヒカリ」の2割減を原則として、地力に合わせて増減させる。
- 初期分けつを確保するために、活着後の浅水管理を徹底する。